

漢字かな交じり文を書く(7)

締切り 七月二十四日(必着)

坊やはよい子だ ねんねしな
 ねんねのお守け 何処へ行た
 あのら越えて 里へ行た
 里のお土産に 何もゐた
 てんてん太鼓に 竹生の笛
 起より法師に 振り鼓

奥村憲照先生書

◎書道のジャンルには、大別して「漢字」「かな」「漢字かな交じり文」の三つがあります。

◎「漢字かな交じり文」は、実用書としてはあたり前のことですが、芸術書としては比較的新しい分野で、近代詩文書とか調和体と呼ばれています。団体によっては、新和様とか新書芸という呼称もあります。

◎今月のお手本は、わらべうたに相應しい、かわいらしい表現となっています。皆さんもそれぞれに工夫してみてください。

◎誰にでも読めて、言葉の感動をストレートに表現できる「漢字かな交じり文」の世界をお楽しみ下さい。

※出典 町田嘉章・浅野建二編「わらべうた」

※落款(氏名)も作品の一部として、作品の最後に書き入れて下さい。(雅印のみ可)

□作品の出し方

▼硬筆部 B5判(二五七mm×一八二mm)以下の紙に書いて下さい。用具は自由です。(黒色に限る)

▼毛筆部 半紙に書いて下さい。筆ペンも可です。

▼出品制限の対象とはしませんが、出品は硬・毛のどちらか一方に限ります。

▼事務処理上、支部略称・氏名・会員番号・硬筆規定の成績(毛筆の場合は毛筆漢字の成績)を、作品余白にお書き下さい。

▼優秀作品は、写真版として成績表の後ろに掲載しますが、成績表での順位発表はしません。

準初段から六段まで

新入から1級まで

〔解説〕



▶教範・書範は右課題を「楷書」で、師範は「行草または草書」で出書して下さい。
練習は毎日が理想。毎日少しでも練習すればそれだけ上達します。

力と美しい姿とは
青春の花であり
分別は老年の花だ

おか だ りゅう ほう 書
岡 田 龍 芳 書

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会段位用紙

〔解説〕



簡	与	ど
潔	え	ん
に	る	な
し	に	教
た	せ	訓
ま	よ	を
え		

おお たに せい じょう 書
大 谷 清 城 書

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会級位用紙

★どんな：（書体＝楷書）

ホラティウス（前五〇前八）

古代ローマの詩人

あまり長い教訓は、聞く側も頭が困
乱して理解できなくなりますが、覚え
ておくこともむずかしくなります。「寸
鉄人を刺す」といいます。短い言葉で
教訓や忠告を与える方が、ずっと心に
残り、大きな効果が得られるでしょう。

◆8月課題予告（行書）

人生の大目的は

知識ではなくて

行動である

★力と：（書体＝行書）

デモクリトス（前四〇頃～前三〇頃）

古代ギリシアの哲学者

体にみなぎる力強さとか活き活きと
した美しさは、まさに青春時代の特権
であり花です。歳を重ねるとその花は
次第にしぼんでしまいますが、また新
たに「分別」という花が咲くのです。
人生経験から生まれる花を、益々大き
く輝かせていきたいものです。

◆8月課題予告（行草または草書）

君子は

禍 至れども懼れず

福 至れども喜ばず

▼教範・書範＝行書

▼師範＝楷書

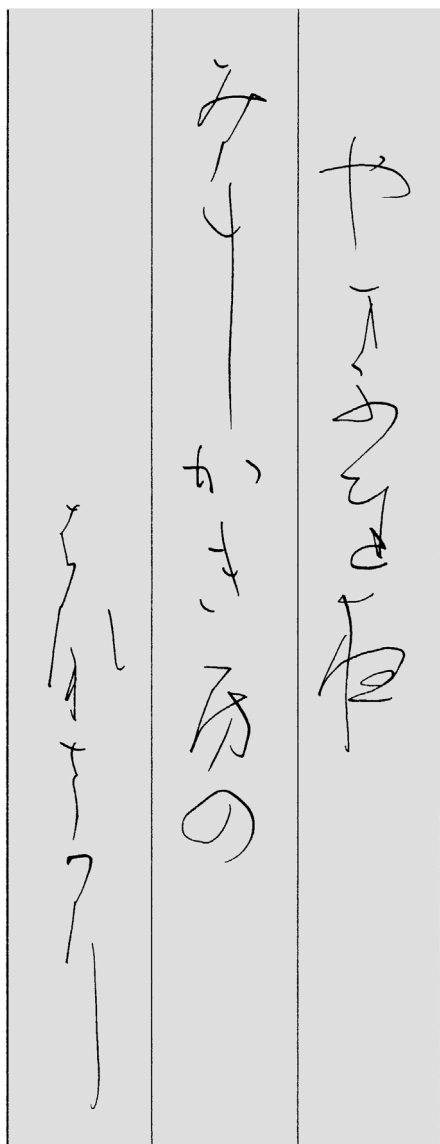
一般部かな課題

締切り 7月24日(必着)

準初段から六段まで

新入から1級まで

山藤や短き房の花ざかり

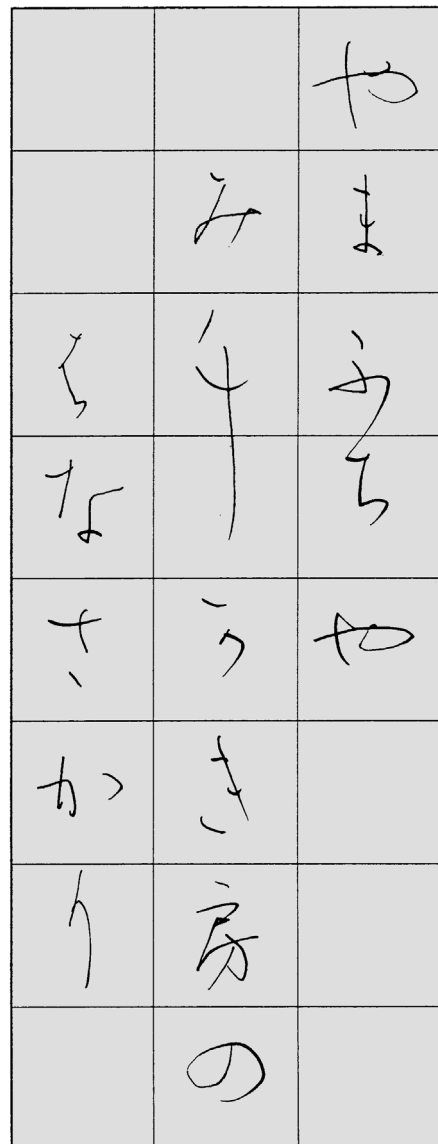


こ だま ち せん 書
児 玉 知 泉

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

山藤や短き房の花ざかり



こ だま ち せん 書
児 玉 知 泉

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

◆8月課題予告

砂浜や残る暑さをほめめかす

(正岡子規)

◎ご存知のように、元々漢字の草体がかなの元になっていますので源字がくずれていく様を思いながら書かれるとよいでしょう。

夜 夜

や・よ

遅 遅

遅

千 千

千

〔解説〕

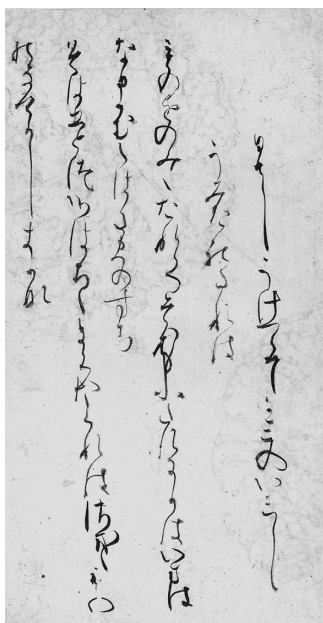
〔出典〕日本文学全集69 現代句集

山藤や短き房の花ざかり

(正岡子規)

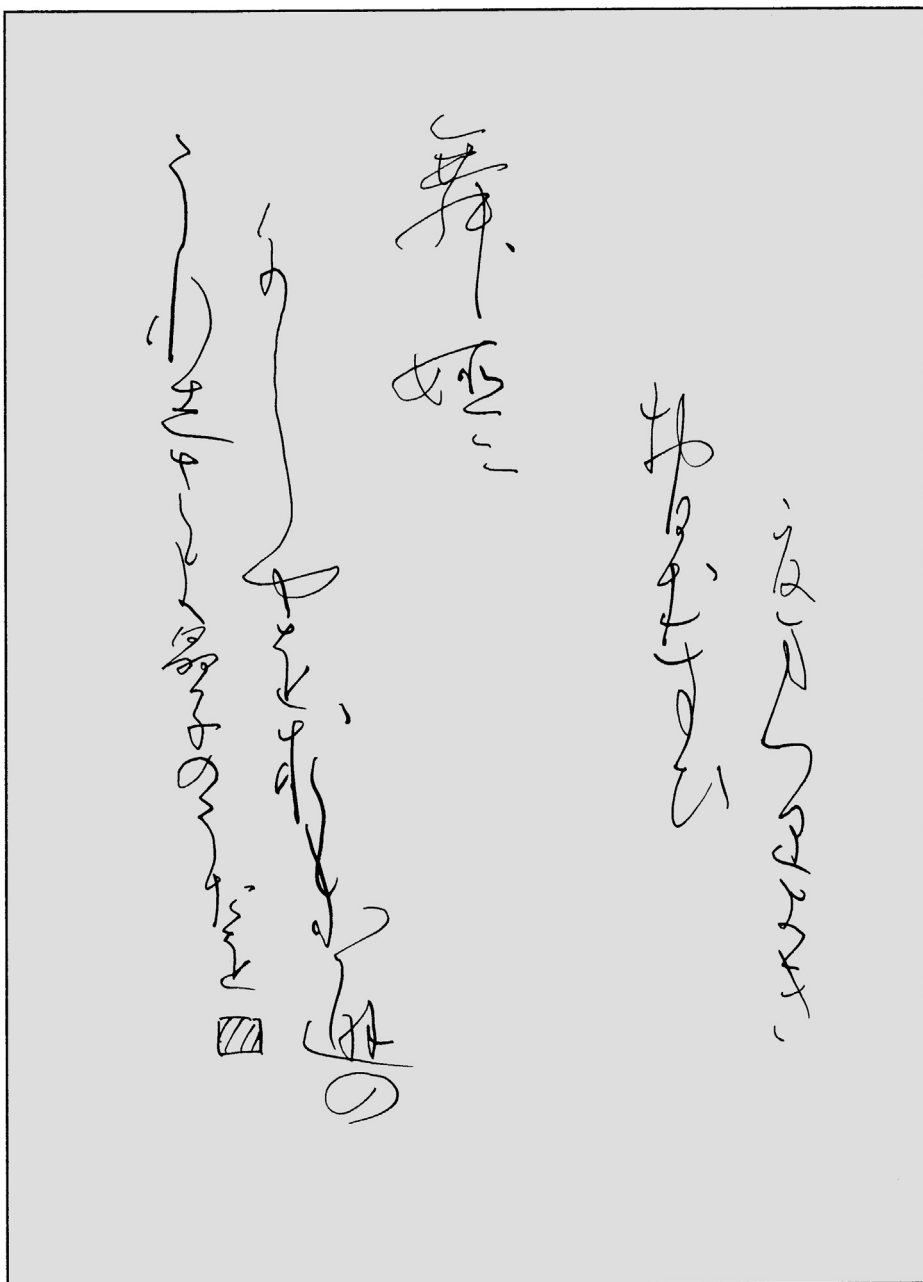
〔古筆参考〕

いずみ しき ぶ ぞくしゅうぎれ
和泉式部続集切



締切り 七月二十四日(必着)

築瀬舟香書



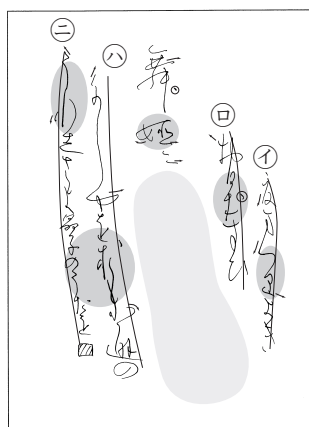
ひさしうけづらで、かみのいみじ
うみだれたれば
ものをのみ、だれてぞおもふたれにかはいまは
なびかむ、ばたまのすぢ
みはひとつ心はちぐにくだくればさまぐもの
のなげかしきかな

夏まつりよき帯むすび舞姫に
似しやを思ふ日のうれしさよ
晶子のうたを

〔歌意〕少女時代、夏祭りともなれば
良い帯を結んで舞妓さんになった気分
でうれしかったものです。

〔出典〕名歌即訳 与謝野晶子

〔解説〕



- ①と②、①と③、②と④、③と⑤、
それぞれ呼応。
- ②と④で舞姫を包む。
- 一行の密の部分、密の動き注意。
- 大きな間大切。
- △ と○の方向に注意。

曲線と直線の美

「舞姫」のように曲線の美しさを持つ
文字は、作品の中に多く使用される
と清冽さに欠けますが、温かさを醸し
出します。逆に直線は、作品にスッキ
リ感をもたらしますが、冷たさを感じ
させます。美しい作品とは、二つの美
しさが程よくまじり合ったものと言え
ましょう。

◆8月課題予告

夏の夜の鈍色の雲おし上げて
白き孔雀の月のほりきぬ

(与謝野晶子)

締切り 7月24日(必着)

春の特定健康検診結果で、血圧がやゝ高めの要注意でした。食事と運動不足に気をつけるよう指導があったので、この際スイミングに通うことにしました。少々心細いのですが、一緒に行きませんか。

◎手本は水性ボールペン使用

作品の出し方

- 新人から師範まで、どなたでも出書できます。成績は評価により毎月変わります。
- 用紙Ⅱはがき課題ははがき用紙、横書き課題は一般部段位用紙を横に使用。
- 用具Ⅱはがき、横書き課題ともに自由。(黒色に限る)
- 両課題とも、書体変換は自由です。

春の特定健康検診結果で、血圧がやゝ高めの要注意でした。食事と運動不足に気をつけるよう指導があったので、この際スイミングに通うことにしました。少々心細いのですが、一緒に行きませんか。

横 書 き 課 題

おか しま けい せん
岡 嶋 桂 川 書

東京にある東洋文庫は、世界有数の
の学術図書館として知られている。

山口県岩国市 氏 名

※手本は、つけペン使用。 ★三行目は、指定の地名と氏名を書いて下さい。

一般部毛筆漢字課題

締切り 7月24日（必着）

職
兼
三
相
位
摠

職 兼 三
相 位 摠

準初段から師範まで

奥
村
暢
之
臨

〔出典〕孔子廟堂碑（626～633）〔筆者〕虞世南（558～638）

〔読み〕職は三^{しよく}相^{さんそう}を兼^かね、位は（六^く戎^{らい}を）摠^{りくじゅうす}ぶ。

聲 幽
村 靜
蛙

〔読み〕村^あ靜^{せい}蛙^{いかす}聲^せ幽^いかなり

〔大意〕静かな村から蛙の聲が幽かに聞こえる。

新入から1級まで（楷書）

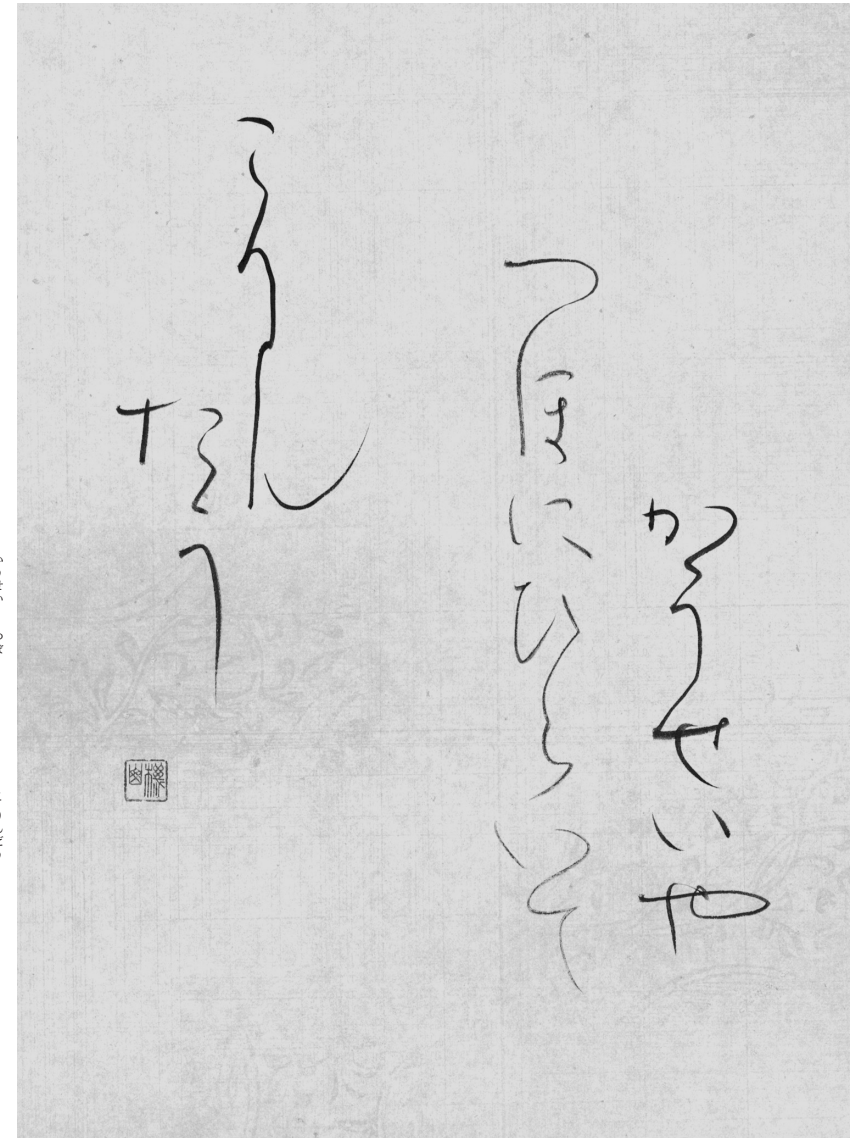
澤
靜
雨
書

一般部毛筆かな課題

締切り 7月24日（必着）

新入から1級まで

浅井機山先生書

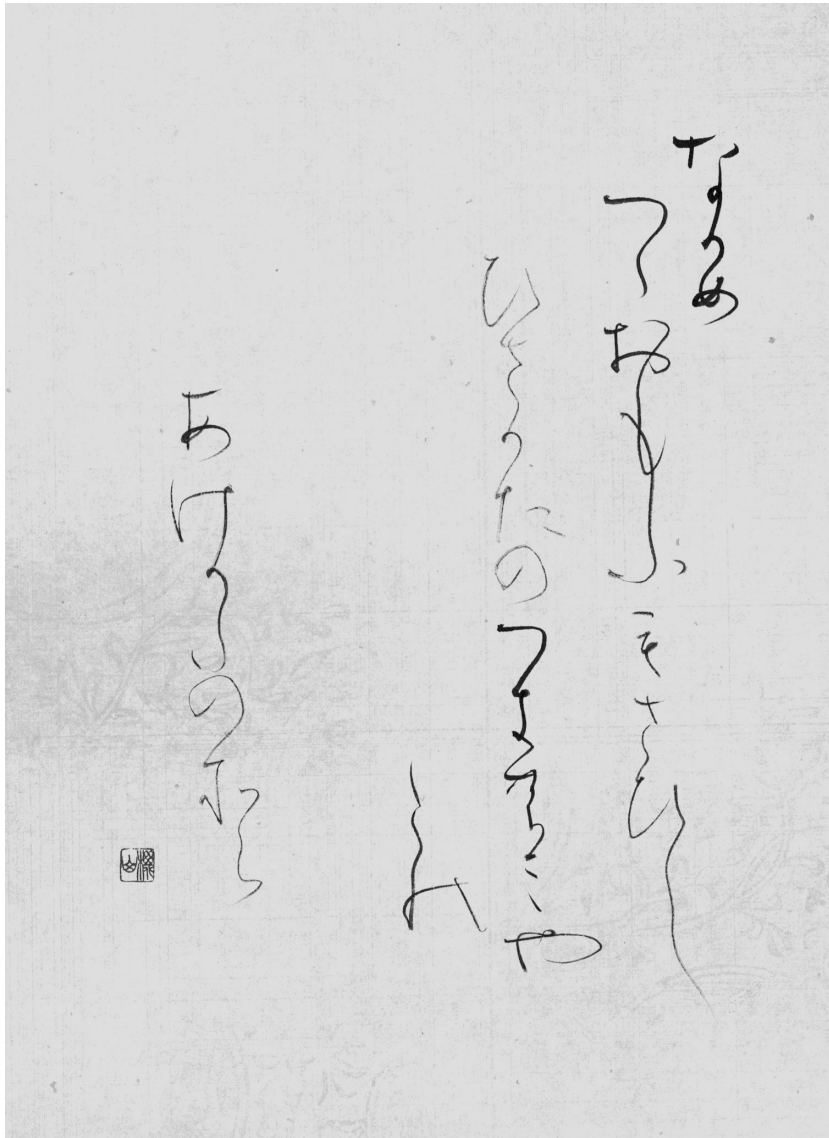


〔出典〕 杉田久女

〔句意〕 高く澄んだ天の青と、山中に手折った濃龍膽の色との対照に、すがすがしい秋の情趣がとらえられている。

準初段から師範まで

■ 両課題とも文字の変換、ちらし方は自由です。

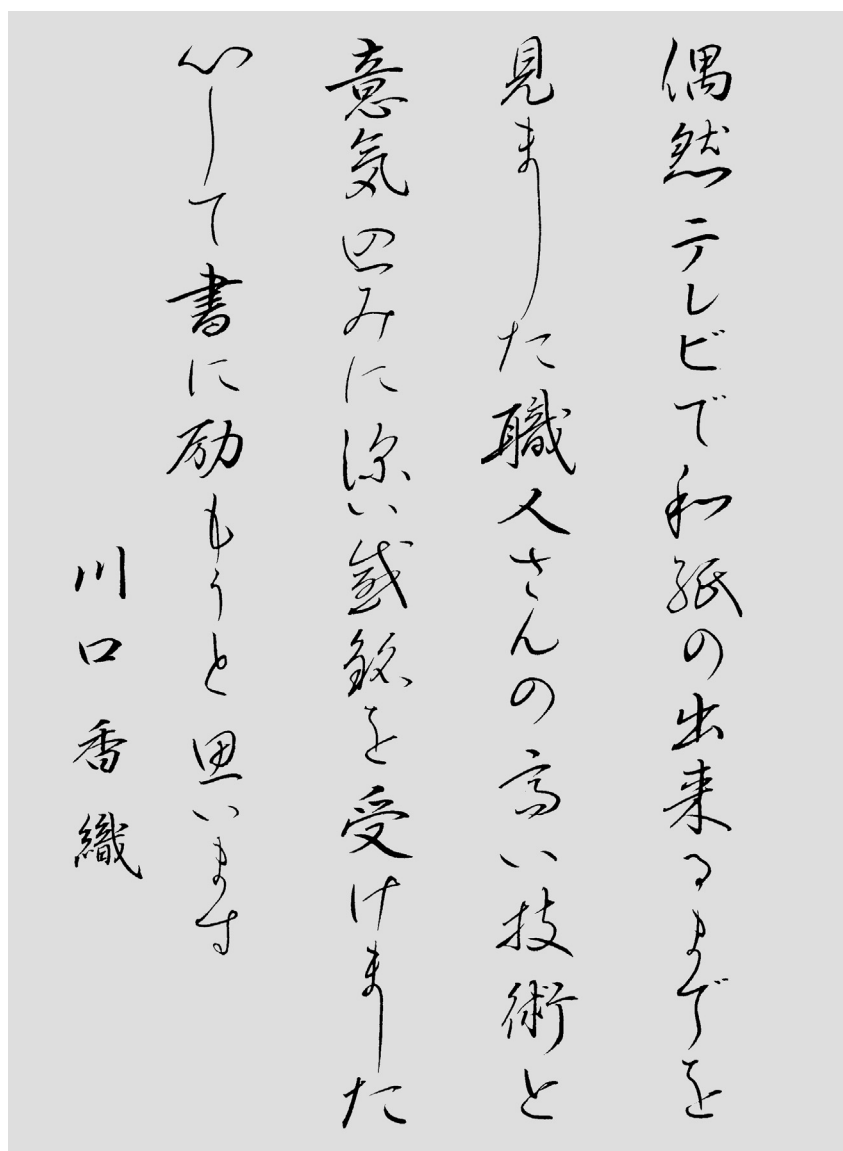


〔出典〕 藤原家隆

〔歌意〕 しみじみと月を見ながら、想像するのもさびしい。（久方の）月のなかにあるという都の、明け方の空は。

ながめつつ思ふもさびし久方の
月の都のあけがたの空

一般部毛筆細字課題



半紙 (334mm × 240mm)

おお みや しゅん ちょう 書
大 宮 春 兆

一般部毛筆条幅課題



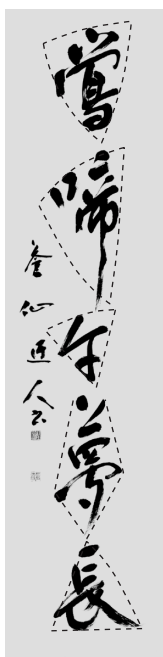
締切り 七月二十四日(必着)

半切 (一三六cm × 三五cm)

荻田蒼仙書

鶯啼午夢長
うぐいすないてこむながし
【大意】鶯が啼いて、
ひる寝の夢はいつまでも
醒めない。(袁隨園)
初出品の方へ
支部名・会員番号・
姓名・毛筆漢字成績
を、作品左下に必ず
お書き下さい。

【解説】一行書きの指定を受け、安易に考えていましたが、書くにつれ自分の無力を感じました。変化と統一、手本という一定の枠を考えながら苦戦しました。



偶然テレビで和紙の出来るまでを
見ました職人さんの高い技術と
意気込みに深い感銘を受けました
心して書に励もうと思います

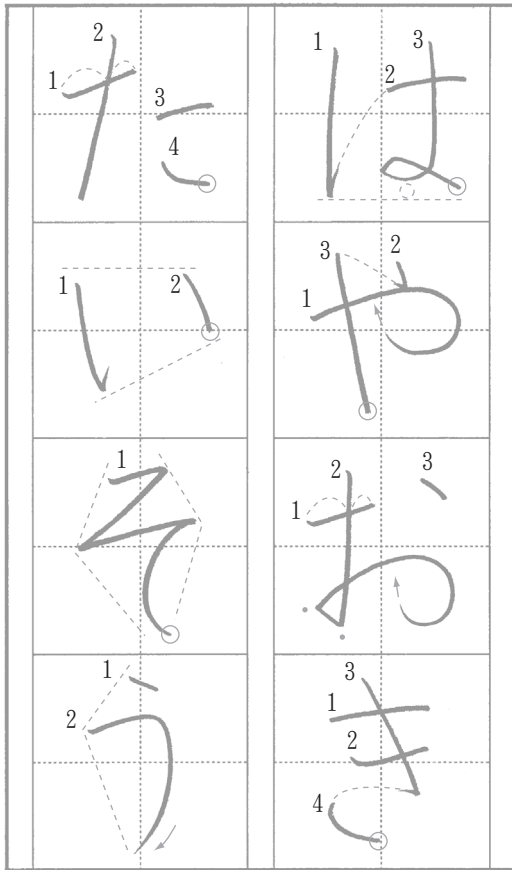
(自分の氏名)

・印で墨つぎしました。

【条幅・細字作品の出し方】

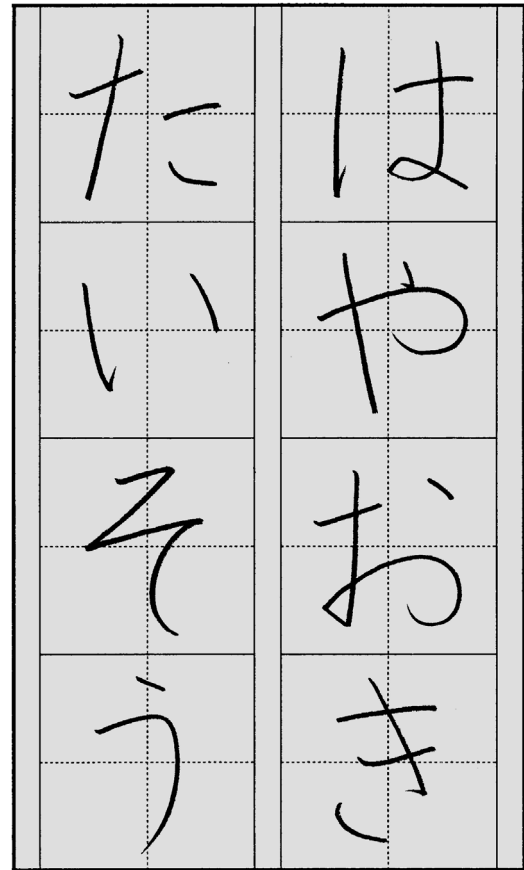
- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。
- 成績(天位5等)は、評価により毎月変わります。
- 書体変換、変体仮名の交換は自由です。

〈ようぐ〉自由(黒色にかざる)



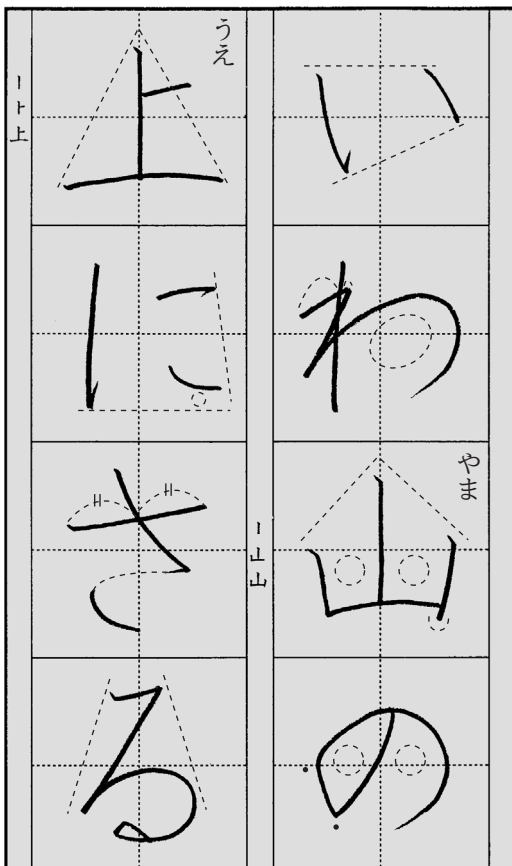
◆ひらがなトレーニング(なぞってかいてみよう)

★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。
★幼年は、全員8マス用紙で出書して下さい。



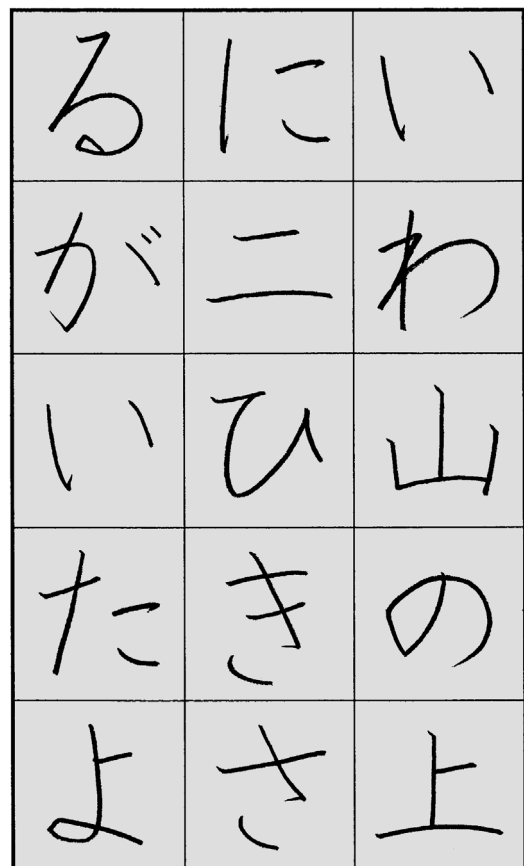
よ
う
年

幼年～小三年 三宅容玉書



新入～1級

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。



小
一
年

準初段以上

〈ようぐ〉自由(黒色にかざる)

う	水 みず
長 なが	玉 たま
く	も
つ	よ

新入1級

小二年

り	の	水
の	お	玉
長	気	も
く	に	よ
つ	入	う

準初段以上

準初段以上

半 ハン	ふ
分 ブン	く
持 モ	る
つ	を

新入1級

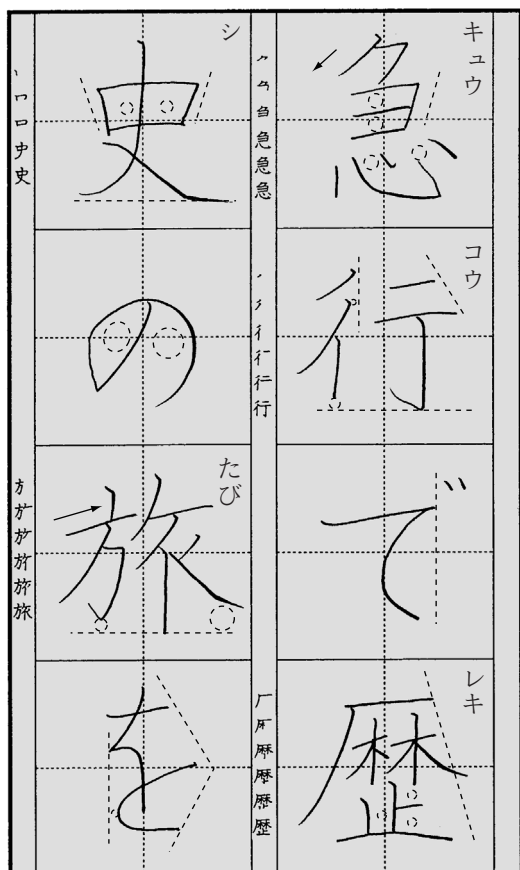
小三年

を	重	米
半	い	の
分	ふ	入
持	く	っ
つ	ろ	た

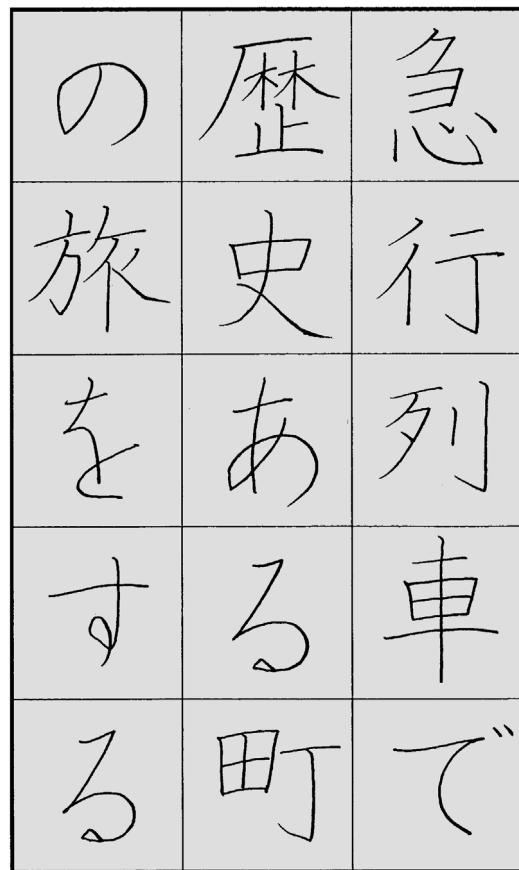
準初段以上

準初段以上

〈用具〉自由(黒色に限る)

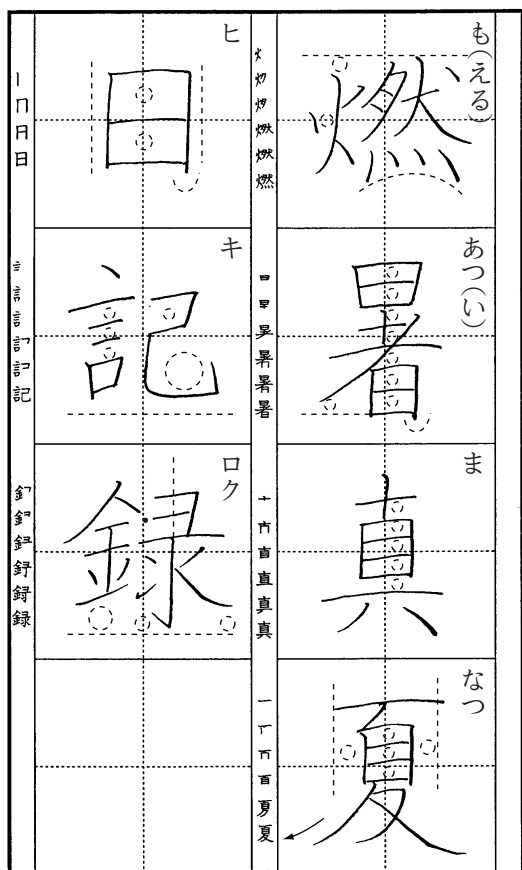


新入1級



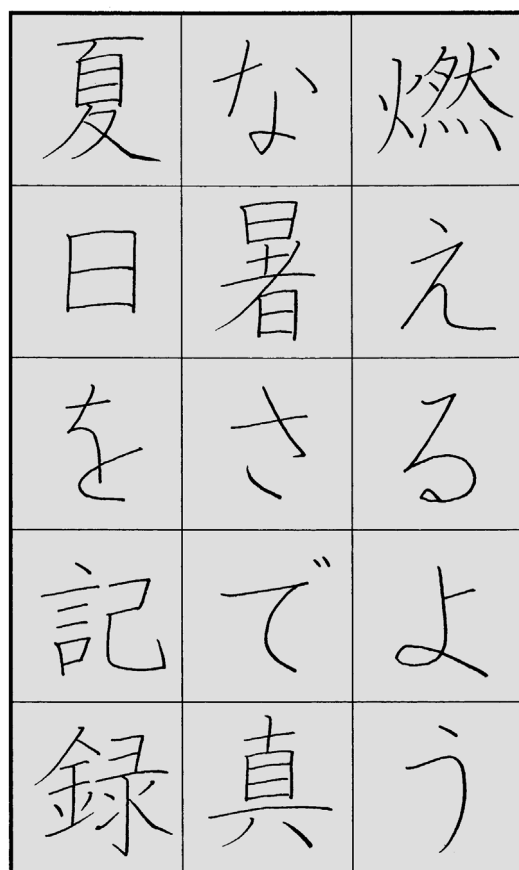
小四年

準初段以上



解説(よく見て習いましょう)

小五以上は、全員15マス用紙で出書して下さい。

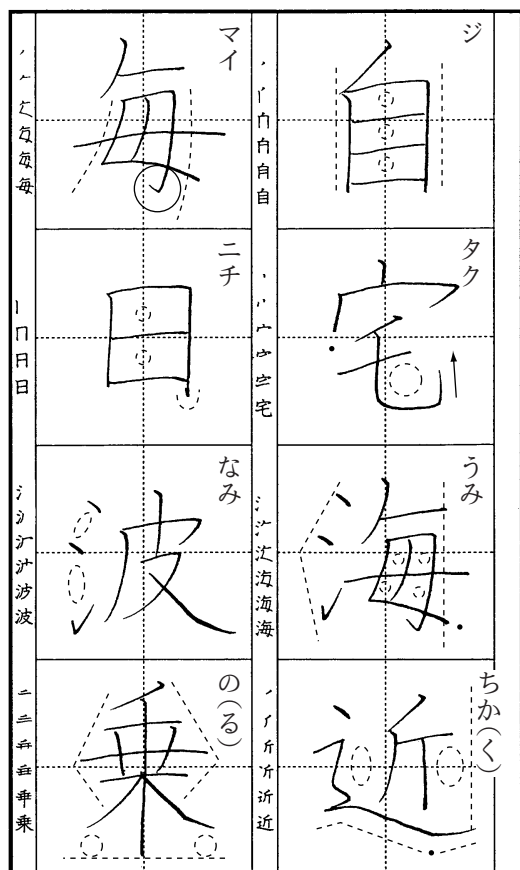


小五年

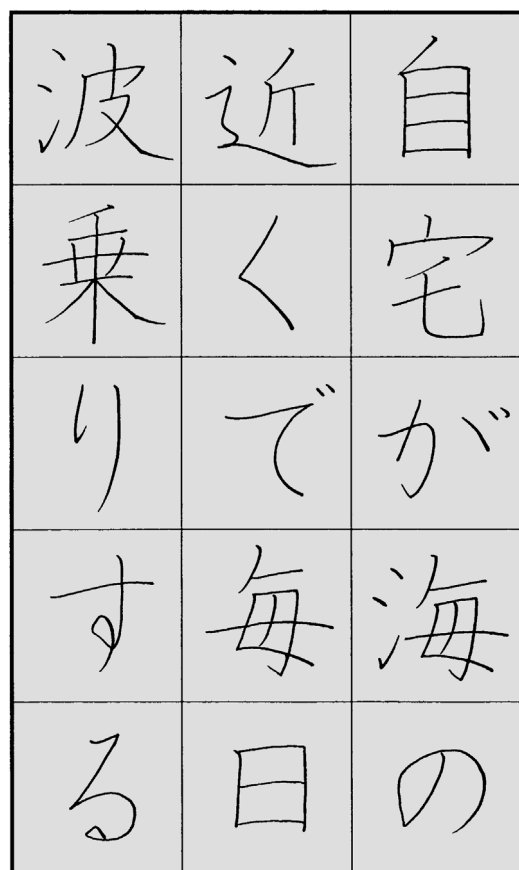
(全員)

小四以上 須田一葉書

〈ようぐ〉自由(黒色に限る)



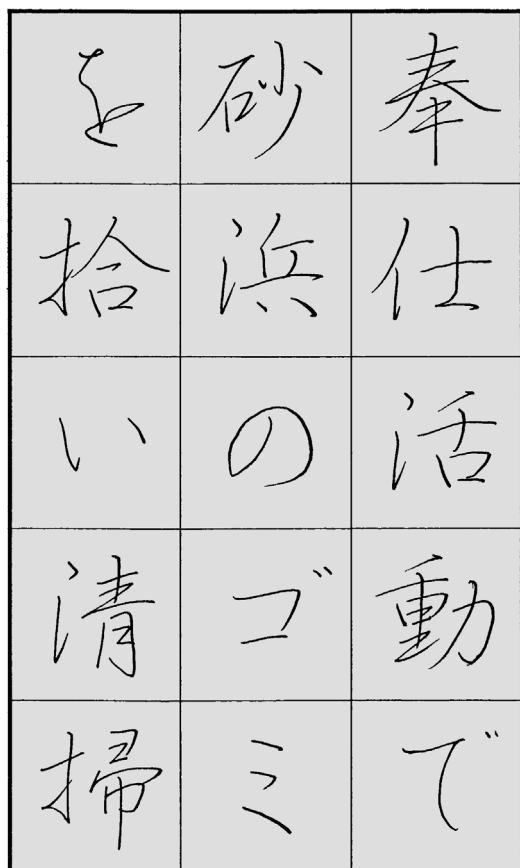
解説(よく見て習いましょう)



小六年

(全員)

◎お手本は、つけペンで書きました。



中二・三年 (行書)

【読み】梅雨(つゆ) 単語としてこのように読みます。



中一年 (行書)

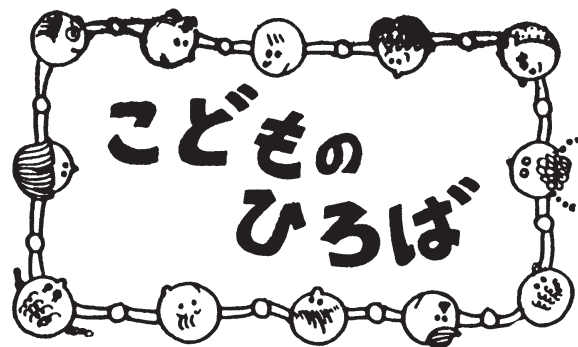
▼小三年以下の課題

はっ 服 部 祐 光 書

ゆ	さ	書 ^か	ね	天 ^{あま}
れ	ら	い	が	の
る	さ	た	い	川 ^{がわ}
よ	ら	短 ^{たん}	事 ^{こと}	の
		ざ	を	下 ^{もと}
		く		
		が		



◎お手本はえんぴつ使用



しめきり 7月24日(必着)

習っていない漢字は、
ひらがなで書いてもよろしい。

▼小四年以上の課題

やま 山 かど 門 せい 清 せん 扇 書

音 ^ね	な	少	風 ^{ふう}	ガ
色 ^{いろ}	っ	し	鈴 ^{りん}	ラ
は	た	不 ^ふ	作 ^{つく}	ス
涼 ^{すず}	け	格 ^{かく}	り	エ
し	ど	好 ^{こう}	を	房 ^{ぼう}
げ		に	体 ^{たい}	で
			験 ^{けん}	



◎お手本はつけペン使用

◇作品の出し方

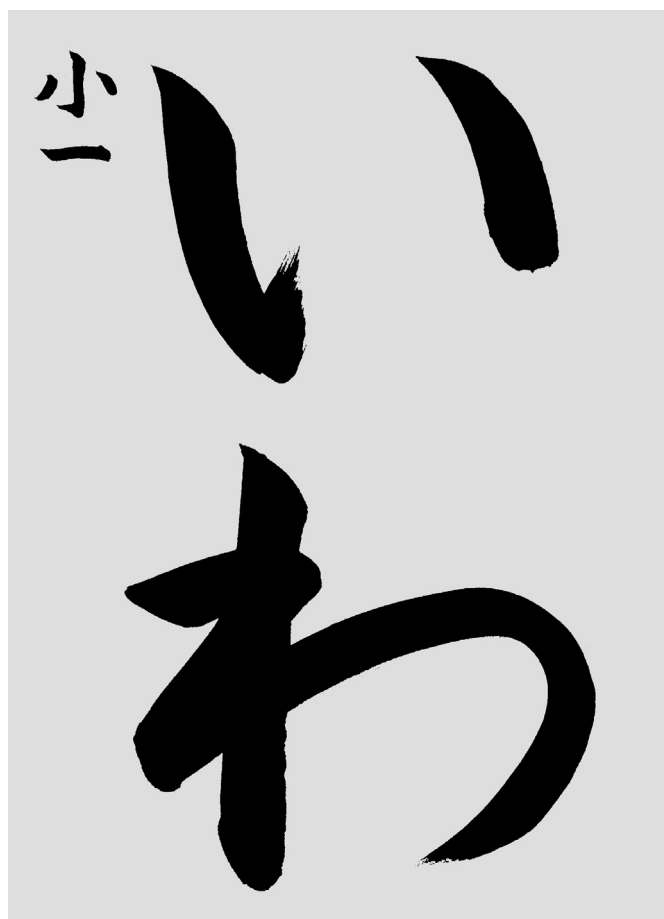
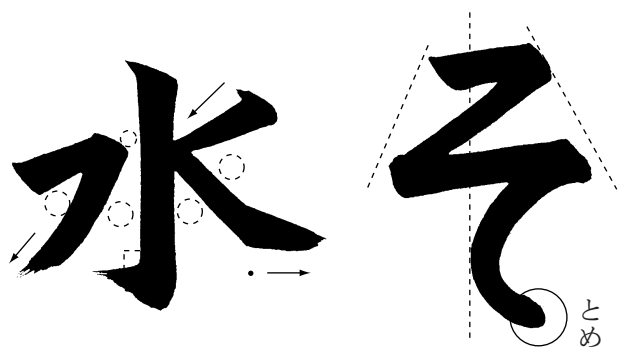
- 一、選定用紙（五行・四行）に書いて下さい。
- 一、作品には、支部名（校名）学年、氏名を書き入れて下さい。
- 一、筆記用具は自由です。（黒色に限る）
- 一、四行用紙を使用してもよろしい。その場合は、文章を適当に短くして下さい。
- 一、成績は評価により毎月変わります。
- 一、支部会員は、出品ラベルを必ず貼って下さい。貼っていない方は新入とみなします。

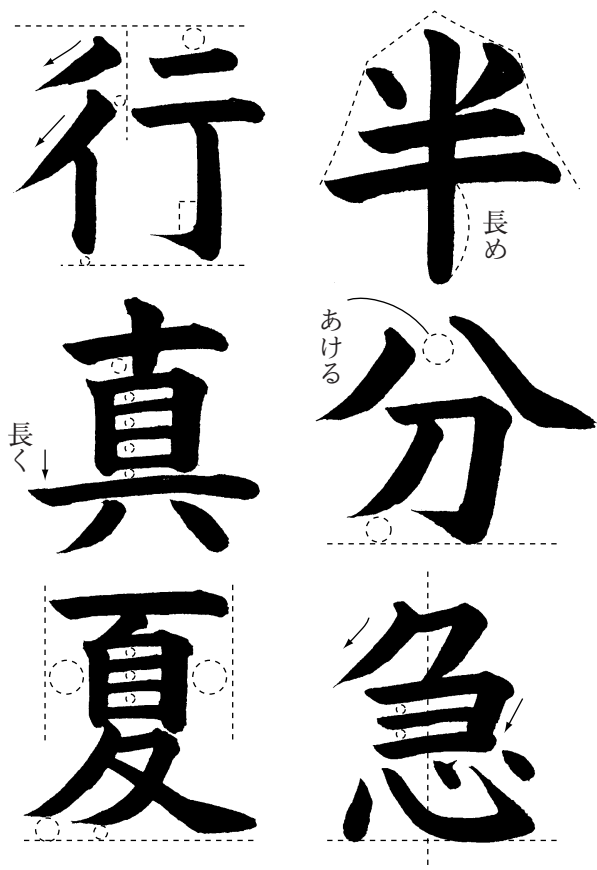




幼年し小二年

玉たま樹き小しょう華書か





小三、小五年

水野香竹書

中二

奉

動仕

小六・中二・三年

奥村暢之書

り波

小六

乗

明

波

奉

乗

長く

動

梅

行書は、線のつながりや気脈に注意して書こう

中一

明梅

け雨